

委員からの御意見・御提言(H30年度盛岡広域振興局の取組について)

(委員五十音順)

No.	委員氏名	御意見・御提言	担当部等
1	片野 圭二委員	従来の東北地域の労働スタイルである「下請け・労働集約型産業」から脱皮するために、地域の中小企業でも自立型で参画できる産業である「医療・ライフサイエンス」が重点分野と考える。 また、上記産業を活性化する上で、「ベンチャー創出による活性化」、「海外展開(製造は地域・販売は世界)」が重点課題であり、これに中・高校生の若者も含めて参画できるしくみが必要と考える。	経営企画部
2	狩野 徹委員	学生の多い地区であるので、学生が地域でいきいきと生活ができる支援があるといいと思う。そのために、公共交通機関を充実させ、学生が地域活動に参加する際の移手段を確保してほしい。 4年制大学であれば4年で学生は変わるが、常にこの年代の住民がいる「強み」をいかすことが必要である。支援する対象とともに地域の中心になる両方の立場をうまく盛り込んでいただきたい。学生ができること、地域で必要なことのマッチングができるよう、「若者の登録システム」のような情報管理の支援が必要だと思う。	経営企画部
3	工藤 朋委員	観光振興に関して、酒蔵は観光資源として重要な要素だと考えている。弊社としても取り組んでいきたい。 観光と合わせて岩手の食や工芸を県外にPRする取り組みにも引き続き取り組んで頂けることに期待したい。継続してPRし続けることが大切。 また、地域内でもブランド食材や工芸品が地域で使われるようなことにも取り組んで頂きたい。外向けには積極的にPRしているのに地元でブランド食材や工芸品が使われていないというのではもったいない。製造者にも、それを使用する地域の人にとってもメリットがある施策を期待したい。 また、インバウンドを念頭においた海外交流は私たちに取って地域の魅力を認識するきっかけとなるので、引き続き力を入れていただきたい。	経営企画部
4		地域商社的事業者の育成について、昨年、八幡平市の食産業者とともに日本酒を都市圏にPRする取り組みをする機会があった。岩手の食材を都市圏で使っていただくためには流通経費が課題になると感じている。飲食店に新鮮な食材を供給するためには小ロットでの提供になり、販売金額の中で運賃のしめるウェイトが高くなる。岩手県は人口が密集する大消費地からの距離が遠く、運搬に係るコストが大きい。このコストを下げることを目的として広域圏で独自のロジスティクスを作らせるような施策に期待したい。弊社は県内にしか卸していないが、日本酒の場合は商品重量が重く品質管理も難しいために、ロジスティクスは重要だと考えている。	経営企画部
5	嵯峨 裕紀	資料5の4.次世代に継承できる農業経営の展開と魅力ある農村資源の活用②産地の持続的な発展の畜産の収益性向上について、八幡平市繁殖・育成センターは県央地域初の取り組みであるが、県内他地域の事例も踏まえて、どのような内容、特色なのか。どの範囲までの農家が利用可能か。 まだ事業が開始していないが、県内でも最も和牛子牛出荷頭数の多い管内である県央地域で今後の展開があればお聞きしたい。	農政部
6	平野 順子委員	複数の分野・業界の連携が必要な取り組みも多く、それを実現するためには、個々の専門性が高いだけでなく、コーディネートできるようなコミュニケーション能力や調整力、協調性が高い人材の育成が求められると思う。 特にも、近年では、若年者の社会人基礎力の低下が懸念されているので、その向上にも取り組めるといいと思う。	教育事務所
7	水本 孝委員	定住人口・交流人口の増加に向けた取組について、県内から県央地区に人口が移動するだけでは県全体にとって好ましいことではない。よって他県からの移住に対し、優遇税制や移住支援策を講じてはどうか。	経営企画部 県税部
8	八重畑 祐見子委員	資料5の5.森林資源の循環利用による林業・木材産業の振興について、森林整備事業での造林の支援のほかに、育林(保育)を継続的に支援していかなければならないと思う。 また、NPO等地域の民間活動組織が行う森林保全活動への支援が明記されていないのはなぜか。	林務部
9		資料5の11.環境を保全し自然と共生する地域社会の創造について、昨年のエコスタッフ養成セミナーの結果とその後の活動を聞かせてほしい。 また、マスコット「りば〜るくん」の活用実績がどうなのか知りたい。	保健福祉環境部

※ いただいたご意見等は、口調を揃えるなど、一部手を加えさせていただいております。